

V. 特記事項

1. 子ども総合保育センター

子ども総合保育センター（以下、センター）は、地域に開かれた子育て支援に対応した総合施設として、平成20(2008)年4月に開設した。大阪城南女子短期大学、城南学園幼稚園、城南学園保育園との連携のもと、0～3歳児の未就園親子の子育て支援、学生の学びの場として機能させてきた。運営は本学の専任教員が主として担い、各種活動にも多くの専任教員や大学院生が担当者・協力者として参加し、子育て支援活動に携わってきた。また、学生の学びの場として、「子育て支援体験」や「インターンシップ」の実習先としても活用してきた。地域に開かれた子育て支援の先駆的な取組として評価されてきた。

しかし令和2年(2020)年度始めから令和3年(2021)年度末までは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で子育て支援事業が展開できない状況に陥った。その後、令和4年(2023)年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下にあっても地域貢献を果たしていく道を模索した。

現在、教職員組織は、センター長1名及びセンター員2名（いずれも専任教員）と事務局員1名で構成している。また、立候補で学生センター員（令和5(2023)年度は4名）を募り、教職員組織と協働して取組を進めている。

令和4年(2023)年度以降の取組は以下のとおりである。

① 教員の社会貢献活動を支える取組

大学ホームページ内のセンターのページに「大阪総合保育大学教員が提供できる研修などの紹介」コーナーを設け、外部からの講師依頼等に対応している。各方面からのアプローチを得て、保育・教育に関する専門的な知見を提供することができている。

② 学生センター員と共に優れた文化を大学内外に発信する機会の提供

「ウクライナ&ロシアこども絵画展」（令和4(2022)年7月11日～8月9日、ウクライナとロシアの子どもの作品それぞれ40作を展示）や、「音のある絵本の読み聞かせ会」（令和4(2022)年7月25日、教員と乳児保育学科1期生の学生による共同実践発表）、「冬の行事をまつ楽しみ～クリスマス絵本のひろば～」(令和4(2022)年12月7日～12月26日、クリスマス絵本の展示と関連イベント六つの実施)を展開した。近隣の子どもたちを招待したり、ポスターやリーフレットを作成して広く一般にも告知したりした。学園・大学内に留まらず、他大学の教職員、学生、地域の親子、一般の方々の来場があった。また、学生センター員が保育所に出向いての「ペープサート小劇場キャラバン」を展開した（令和5(2023)年3月～、現在も継続中）。それぞれの様子は、ホームページに「イベントレポート」として公開している。

今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響以前に行っていた子育て支援事業について、改めてその意義を検討し、新たな方策を立て、実行していく必要がある。そのために、保育実践交流企画室との連携を深め、令和2年(2020)年度春に竣工したC学舎を活用していくことを確認している。令和4(2023)年度から重ねてきた社会貢献活動も継続しながら、社会状況を見据えつつ、今後も、保育大学としての使命を果たしていく。